



# Fuji Pharma IR Report

第53期 第2四半期報告書 2016年10月1日～2017年3月31日

証券コード | 4554

## TOPICS トピックス

タイ子会社

# OLIC (Thailand) Limited 新工場棟が竣工

当社のタイ子会社OLIC (Thailand) Limited (以下、OLIC社)は、工場敷地内に新たに注射剤工場棟(以下、新工場)及び倉庫棟を建設しました。

OLIC社はタイ最大の医薬品製造受託企業で、グローバルな大手製薬企業などからの受託製造を行っています。錠剤、カプセル剤、軟膏剤、クリーム剤、液剤など多岐にわたる剤形の医薬品の製造を行っておりますが、新工場の稼働に伴い注射剤の製造も強化され、更に受託製造の幅が広がります。

新工場は、日本や欧州の最新の製造設備機器を取り入れており、PIC/S<sup>\*1</sup> GMP<sup>\*2</sup>や日本、米国、欧州のGMPに準拠した設計になっています。それに加え当社がこれまでに培ってきた注射剤の製造技術・ノウハウを生かし高品質な製剤を製造することが可能です。

稼働後しばらくは、当社が富山工場で製造していた造影剤のバイアル製剤の製造を計画しており、現在は、日本当局から5品目計20規格の製造販売承認を得る為に繰り返しトライアル製造を行っています。なお、これらの一部の製品は今年中に日本国内で販売できる見込みです。

OLIC社に製造を移管することで、コスト競争力が強化され、FujiPharmaグループ全体の利益に貢献するものと期待しています。また、余剰製造能力を活用し既存顧客からの受託製造も積極的に開拓するとともに、タイをはじめとする東南アジア



各国及びその他の地域に向けた造影剤などの自社ブランド製剤の製造も計画しており、FujiPharmaブランドの海外事業展開を推進してまいります。

- ※1 PIC/S(Pharmaceutical Inspection Convention and Pharmaceutical Inspection Co-operation. Scheme) : 医薬品査察協定及び医薬品査察共同スキーム
- ※2 GMP(Good Manufacturing Practice) : 医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準



竣工式典の様子

### FujiPharmaグループ OLIC社概要

会社名	OLIC (Thailand) Limited
所在地	タイ国アユタヤ県/バンブイン工業団地 (バンコクより70km)
事業内容	医療用医薬品、OTC、食品等の受託製造
代表者	Managing Director 上出豊幸
従業員数	750名(2017年3月末現在)
敷地面積	敷地面積80,000m <sup>2</sup> 、延床面積25,000m <sup>2</sup>
製造設備	製剤製造設備一式、試作設備、試験検査設備、物流倉庫
製造剤形	無菌製剤(バイアル、アンブル)、半固形製剤(軟膏、クリーム、ローション)、固形製剤(錠剤、カプセル剤、顆粒剤、細粒剤、散剤)、液剤(経口・外用)など
製品供給先	大手多国籍製薬企業を中心に30社以上、約600品目を供給 出荷国:タイ、ベトナム、日本、シンガポール、ロシア、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、香港、ミャンマー、台湾、マレーシアなど



# Fuji Pharmaブランディングとグローバル展開で、成長を続けます。

代表取締役社長 **武政 栄治**

## 医薬品業界の環境を踏まえた今後の方針

厚生労働省は2015年に「医薬品産業強化総合戦略」を策定し、「イノベーションの推進」「質の高い効率的な医療の実現」「グローバルな視点での政策の再構築」という3つの基本理念を掲げました。当社はこれらに対して、①女性医療と急性期医療の領域に絞り込んだ新薬の開発を推進する、②国内工場では、製造が難しい無菌製剤・ホルモン剤、タイ子会社OLIC社では、造影剤などコスト競争力のある医薬品を生産する、③OLIC社を生産拠点として日本品質の医薬品をASEAN各国に供給する、という基本方針を明確にしました。この3つの方針に基づき国の施策を踏まえながら、疾患領域や医薬品の剤形等に特化したスペシャリティファーマとしてより多くの患者様に更なる貢献を果たしてまいります。

## 当上半期の主な取り組みと業績評価、通期見通し

当社グループのこの上半期の業績ですが、売上高は、前年同期比2.9%増の17,324百万円、営業利益は同25.0%増の2,274百万円と、概ね当初の見込み通りに推移しています。

上半期の主な取り組みとしては、まず、国内では2017年2月にジェネリック医薬品2成分2品目の製造販売承認の取得があげられます。このうち『ジエノゲスト錠1mg「F」』は子宮内膜症の治療薬であり、当社の強みである産科・婦人科領域の製剤です。2017年6月に発売を予定しております。

また、2017年3月には、非イオン性造影剤「オプチレイ®350注」「オプチレイ®350注シリンジ100mL・135mL」について、腹部のコンピューター断層撮影における造影に関する適応の追加と、「オプチレイ®350注シリンジ」の高用量製剤である135mL製剤の剤形追加承認を取得いたしました。今回、新たに効能追加をした「オプチレイ®350注シリンジ100mL」については2017年5月から発売を開始しており、新剤形の「オプチレイ®350注シリンジ135mL」については準備が整い次第の発売を予定しております。

海外では、2017年1月にタイ子会社OLIC社の新工場の竣工式を執り行いました。新工場は日本、米国、欧州のGMPに準拠しており、当社がこれまでに培ってきた注射剤の製造技術・ノウハウを移管し高品質な医薬品を製造することが可能です。稼働当初は、主に富山工場で製造していた当社の主力製剤である造影剤のバイアル製剤を製造する予定です。

## 中期経営計画の現状と今後の展開

当社の中期経営計画は「FujiPharmaブランディング」をテーマに「一人ひとりと会社と製品のブランド戦略を強力に推進」、「ブランド薬を中心にする新たなステージと体制を構築」、「グローバルなFujiPharmaグループの事業展開を実現」の3つを基本方針に掲げて推進しています。当期で中期経営計画も3年目に入り、女性医療・急性期医療に特化したスペシャリティファーマとして着実に成長を遂げつつあります。ブランド薬を中心とした事業展開も進んでおり2017年9月期には31%以上の売上構成比を見込んでいます。また、海外事業展開についてはタイ子会社のOLIC社に新工場が完成したことで、造影剤のコスト競争力を高めることが可能になるとともに、日本品質の自社医薬品をタイ及び周辺国へ販売することも可能となり、その準備を進めています。

この3つの基本方針をもとに中期経営計画を支える成長戦略であるブランド×ジェネリック×CMOの独自相乗発展モデルの構築もされつつあります。例えば、急性期領域にて以前より品質に徹底的にこだわりジェネリック造影剤を主力として販売し続け、高いシェアの実績をあげてきた結果、医療機関の先生方をはじめとする関係提携先の協力を得ながら2013年12月より非イオン性造影剤の新薬「オプチレイ®注」の販売を開始、また2015年10月には、ゲルバ・ジャパン株式会社よりMRI用造影剤の新薬「マグネスコープ®静注」も導入販売を開始し、放射線科領域での企業ブランドの向上と関連造影剤の受注増の実績に繋がっています。今後はこれらブランド造影剤もOLIC社で製造することでコスト競争力を高めることも見込んでいます。

こうした成長戦略の相乗効果を果実化させることで、中期経営計画の最終年度である2019年9月期には売上高425億円、営業利益67億円、純利益43億円の数値目標の達成を目指していきます。

## OLIC社を拠点とした海外事業の展望

当社グループの更なる成長の為に、高品質な医薬品の安定供給体制の構築、コスト競争力の強化及びグローバル市場へ展開する為の事業基盤確立が重要であり、その一翼を担うのがOLIC社の新工場であると位置づけています。

新工場においては、厳しい日本の品質規格を追い求めることによってその品質がOLIC社の企業価値向上に繋がることを目指しています。日本市場をはじめ、世界各国に安定的に医薬品を供給出来る先駆的タイ企業となることを目標としています。また、三井物産株式会社との業務提携に基づき同社のネットワークを活用させていただきながら富士製薬工業のグローバル展開の戦略生産拠点として機能させてまいります。

OLIC社はタイ最大のCMOメーカーとして既に地位を築いており、今回の新工場がアジアパシフィック地域のSustainable Leading CMOの実現を牽引すると考えています。

## 株主・投資家の皆様へメッセージ

世界情勢及び医薬品業界が大きく変化する環境下、出来る限りこうした環境に左右されることなく、戦略領域でのスペシャリティファーマを目指す方針を掲げています。その為には、更に収益性が高いブランド薬へのシフト、グローバル会社に対抗出来るコスト競争力の強化、海外市場への展開が必要と考えており、その実現の為の経営基盤確立を一步一步実行しているところです。戦略領域での新薬の開発、子会社のOLIC社の活用、ASEAN市場への参入は、当社の「難題に挑み続け、当社にしか出来ないことを成す」経営理念に基づきます。このことは当社の企業価値を更に高め、継続的かつ安定的に配当を続けることに繋がると考えています。

株主・投資家の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 中期経営計画の基本方針

**1** 一人ひとりと会社と製品のブランド戦略を強力に推進

人が大好き風土×リーダー育成プラン、生産性・資本収益性引き上げ、特化領域での顧客価値の最大化を推し進めます。

**2** ブランド薬を中心にする新たなステージと体制を構築

ブランド薬を中心に事業計画&戦略の組み立て、会社全機能を刷新、事業運営体制の再構築に取り組みます。

**3** グローバルなFuji Pharmaグループの事業展開を実現

OLIC社を起点に主力製品の海外市場への展開、海外企業とのアライアンス戦略の具体化、“Sustainable Leading CMO in APAC”を図ります。

## 成長戦略

### 戦略領域におけるブランド※(新薬)×ジェネリック×CMOの独自相乗発展モデルの構築

	ブランド（新薬）	ジェネリック	CMO
女性医療	・女性ホルモン剤 / 新投与経路医薬品	・女性ホルモン剤 ・抗ホルモン剤	【OLIC】女性ホルモン剤専用工場棟
急性期医療	・診断用薬 / 販売権 ・診断用薬 / 新効能・新容量医薬品	・DDS / リポソーム ・抗がん剤 ・診断用薬 ・その他注射剤	【OLIC】新注射剤工場棟 【富山】新 Multi-注射剤製造ライン
新戦略領域			【富山】バイオシミラー製造ライン

※当社でのブランド=ブランド薬+ブランドジェネリック(承継品)+バイオシミラー

# CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENT 連結財務諸表(要約)

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 2017年3月31日現在	前期 2016年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	30,994	32,309
現金及び預金	5,497	6,815
受取手形及び売掛金	13,057	13,072
たな卸資産	11,699	11,569
その他	739	852
固定資産	16,528	15,838
有形固定資産	11,768	11,016
無形固定資産	2,981	3,060
投資その他の資産	1,779	1,762
<b>POINT 1</b> 資産合計	<b>47,523</b>	<b>48,147</b>
(負債の部)		
流動負債	10,468	12,739
固定負債	5,799	6,181
<b>POINT 2</b> 負債合計	<b>16,268</b>	<b>18,921</b>
(純資産の部)		
株主資本	30,720	29,278
資本金	3,799	3,799
資本剰余金	5,023	5,023
利益剰余金	23,374	21,944
自己株式	△ 1,476	△ 1,488
その他の包括利益累計額	532	△ 53
非支配株主持分	1	1
<b>POINT 3</b> 純資産合計	<b>31,254</b>	<b>29,226</b>
負債純資産合計	47,523	48,147

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 累計期間 2016年10月1日から 2017年3月31日まで	前第2四半期 累計期間 2015年10月1日から 2016年3月31日まで
売上高	17,324	16,836
売上原価	10,189	10,085
売上総利益	7,134	6,751
販売費及び一般管理費	4,859	4,931
営業利益	2,274	1,819
営業外収益	283	18
営業外費用	22	112
経常利益	2,535	1,725
特別利益	0	46
特別損失	0	171
税金等調整前四半期純利益	2,534	1,600
法人税、住民税及び事業税	656	387
法人税等調整額	88	140
四半期純利益	1,789	1,072
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,789	1,072

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 累計期間 2016年10月1日から 2017年3月31日まで	前第2四半期 累計期間 2015年10月1日から 2016年3月31日まで
<b>POINT 4</b> 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,451	1,822
<b>POINT 5</b> 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 780	△ 1,577
<b>POINT 6</b> 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,003	1,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	△ 29
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,317	1,242
現金及び現金同等物の期首残高	6,815	5,664
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,497	6,906

## 財務諸表の解説

### **POINT 1** 資産について

富山工場の設備更新やOLIC社の新工場建設等に伴い有形固定資産が増加した一方、借入金の返済などにより現預金が減少しております。

### **POINT 2** 負債について

借入金の返済などにより、負債が減少しております。

### **POINT 3** 純資産について

利益剰余金の増加などにより純資産が増加しております。自己資本比率は前期末に比べて5.1ポイント増の65.8%となりました。

### **POINT 4** 営業活動によるキャッシュ・フローについて

仕入債務の減少額5億4千4百万円や法人税等の支払額6億6千2百万円があったものの、利益の増加などにより14億5千1百万円の収入となりました。

### **POINT 5** 投資活動によるキャッシュ・フローについて

富山工場の設備更新やOLIC社の新工場建設等に伴う有形固定資産の取得による支出などにより7億8千万円の支出となりました。

### **POINT 6** 財務活動によるキャッシュ・フローについて

長期借入金の返済による支出や配当金の支払などにより20億3百万円の支出となりました。

詳細な財務情報は、当社ホームページ 株主・投資家情報のIRライブラリをご覧ください。

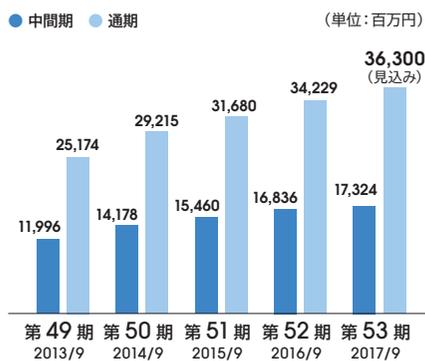
アドレスはこちら <http://www.fujipharma.jp/ir/library/index.html>

富士製薬工業IR

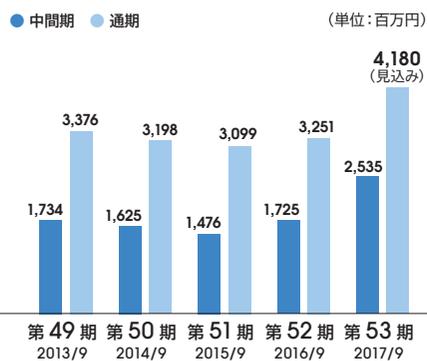
検索

# FINANCIAL HIGHLIGHT 決算ハイライト

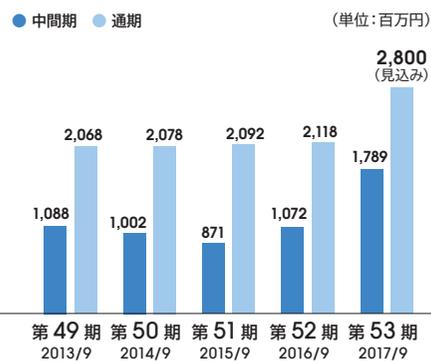
## 売上高



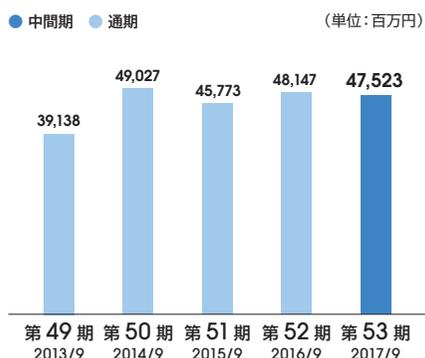
## 経常利益



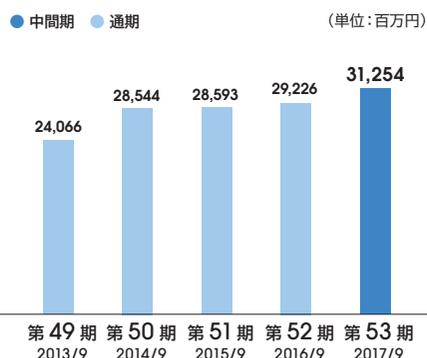
## 親会社株主に帰属する当期純利益



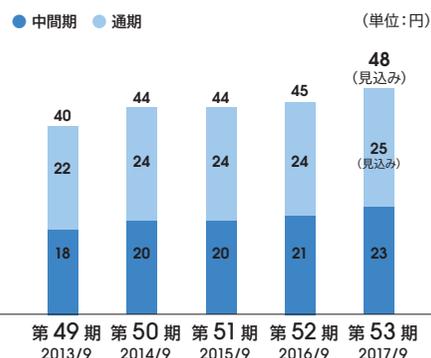
## 総資産



## 純資産



## 1株当たり配当金



## NEW PRODUCTS 新製品

### 非イオン性造影剤「オプチレイ®350注」「オプチレイ®350注シリンジ100mL・135mL」に関する効能追加、剤形追加承認取得のお知らせ

2017年3月30日に非イオン性造影剤「オプチレイ®350注」「オプチレイ®350注シリンジ100mL・135mL」（一般名：イオバルソール）について、腹部のコンピューター断層撮影における造影に関する効能の追加承認を取得いたしました。あわせて「オプチレイ®350注シリンジ」の高用量製剤である135mL製剤の剤形追加承認も取得いたしました。今回、新たに効能追加をした「オプチレイ®350注シリンジ100mL」については2017年5月から発売を開始しており、新剤形の「オプチレイ®350注シリンジ135mL」については準備が整い次第の発売を予定しております。

このたびの効能追加は、かねてより医療現場から多数のご要望を頂いており計画を進めてまいりました。今回の承認取得にて、腹部のコンピューター断層撮影において、従来から販売しております「オプチレイ®320注シリンジ」では十分な造影効果が得られなかった高体重の患者様にも「オプチレイ®注」を使用していただくことが可能となり、医療現場への貢献範囲が更に拡大できるものと期待しています。



### 子宮内膜症治療剤 ジエノゲスト錠 1mg「F」 製造販売承認取得のお知らせ

当社は2017年2月15日に子宮内膜症治療剤であるジエノゲスト錠1mg「F」の製造販売承認を取得いたしました。本剤は2017年6月に発売を予定しております。

ジエノゲスト製剤は子宮内膜症治療において高い有用性を示し、治療上の位置付けを確立してきておりますが、一方で薬価が高いという側面もありました。このたび、ジエノゲスト錠1mg「F」を上市することにより、課題の一つであった患者様の薬剤費負担削減に貢献できる製剤として期待しています。

今後も強みである産科・婦人科領域の製品の拡充を図ることで、女性のQOL向上への貢献を続けてまいります。



## 会社情報(2017年3月31日現在)

会社名	富士製薬工業株式会社 (Fuji Pharma Co., Ltd.)
所在地	〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7
設立	1965年4月
資本金	37億9,910万円
社員数	連結: 1,445名 (富士製薬: 695名、OLIC社: 750名)
事業所	本社: 東京 支店: 北海道・東北・関東第一、関東第二、名古屋、 京滋北陸、関西、中四国、福岡 工場: 富山 研究所: 富山研究開発センター
海外グループ会社	OLIC (Thailand) Limited <a href="http://www.olic-thailand.com/">http://www.olic-thailand.com/</a>

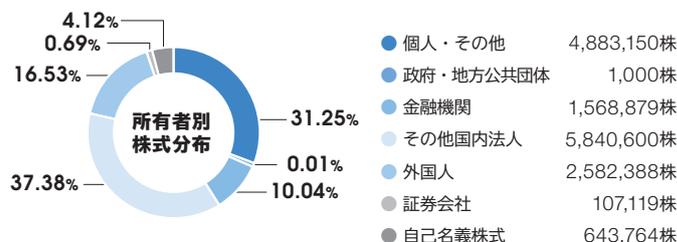
## 役員(2017年3月31日現在)

代表取締役会長	今井 博文	取締役(社外)	小沢 伊弘
代表取締役社長	武政 栄治	取締役(社外)	内田 正行
取締役 副社長	笠井 隆行	取締役(社外)	田中 秀一
取締役 常務執行役員	小澤 雅之	取締役(社外)	平井 敬二
取締役 常務執行役員	井上 誠一	常勤監査役	徳永 賢一
		監査役(社外)	三村 藤明
		監査役(社外)	佐藤 明

## 株式の状況(2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	28,220,000株	
発行済株式総数	15,626,900株	
株主数	2,663名	
株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	3,437,500	22.94
有限会社FJP	2,166,100	14.45
今井 博文	2,026,375	13.52
新井 規子	620,000	4.13
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	445,100	2.97
今井 道子	423,000	2.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	416,700	2.78
RBC IST 15 PCT NON LENDING ACCOUNT-CLIENT ACCOUNT	385,300	2.57
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	300,000	2.00
NORTHERN TRUST CO. (AVFC)RE-HCROO	286,400	1.91

(注)1.当社は、自己株式643千株(発行済株式総数の4.12%)を所有しておりますが、上記大株主から除外しております。また、上記持株比率は自己株式を控除して計算しております。  
2.上記のほか、役員向け株式交付信託の信託財産として、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)が18,579株保有しています。なお、当該株式は連結貸借対照表において自己株式として処理しております。



## 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月開催
基準日	定時株主総会 毎年9月30日 / 期末配当金 毎年9月30日 / 中間配当金 毎年3月31日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
公告方法	電子公告(当社ホームページに掲載) <a href="https://www.fujipharma.jp/ir/other/announce.html">https://www.fujipharma.jp/ir/other/announce.html</a> ただし、事故その他やむを得ない事由がある場合には、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 <郵便物送付先>〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 <電話照会先> ☎ 0120-782-031 <ホームページ> <a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第一部

### ●第53期中間配当金のお支払いについて

第53期中間配当金は、同封の「第53期中間配当金領収証」によりお支払いいたしますので、お近くのゆうちょ銀行全国本支店及び出張所並びに郵便局(銀行代理業者)で払渡期間内(2017年6月1日から2017年6月30日まで)にお受け取りください。なお、銀行預金口座への振込をご指定の方には、「配当金計算書」及び「お振込先について」を、株式数比例配分方式をご指定の方には「配当金計算書」及び「配当金のお受け取り方法について」を同封いたしますので、ご確認ください。なお、ご希望の振込先につきましては、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください。

### ●上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の2008年改正(2008年4月30日法律第23号)により、当社がお支払いする配当金について、配当金額や徴収税額等を記載した「支払通知書」を株主様宛にお送りしております(同封の「配当金計算書」が、「支払通知書」を兼ねることになります)。なお、「支払通知書」は、株主様が確定申告をする際の添付資料としてご使用いただくことができます(株式数比例配分方式を選択されている場合は、お取引の口座管理機関(証券会社)へお問い合わせください)。



富士製薬工業株式会社 Fuji Pharma Co., Ltd.

■IRに関するお問い合わせ

本社/コーポレート企画部 〒102-0075 東京都千代田区三番町5番地7 精糖会館6F  
TEL:03-3556-3344 FAX:03-3556-4455

<http://www.fujipharma.jp/>

